

令和7年度 第1回 GIGA スクール推進協議会 議事録

1 日時

令和7年6月10日(火) 10:00~12:00

2 場所

仙台市役所上杉分庁舎 12階教育局第1会議室

3 委員

安部委員 井阪委員 板垣委員、稲垣委員、及川委員、越坂委員、佐藤委員、中村委員
(五十音順、全8名中8名出席)

4 事務局

郷家副教育長、花田次長、田中次長兼学校教育推進部長、佐藤学校教育調整担当課長、
新妻教育指導課長、高橋教育指導課 ICT教育推進担当課長、
芳賀主幹兼教育課程係長、中田教育センター主幹、西城学びの連携推進室主幹、
大沼高校教育課主幹、留守国際教育推進課主幹、遠藤主幹兼教育支援センター所長、
堀越特別支援教育課主幹、大竹教育指導課情報化推進係長

5 傍聴者 0名

6 内容

(1) 報告事項

①GIGA スクール構想と本市の取組について

(2) 協議事項

①ICTを活用した学校教育の推進について(教育センター)

②情報活用能力の育成に向けた教育課程の編成について(教育指導課)

③ICTを活用した多様な学びについて(教育相談課・教育支援センター)

7 議事要旨

(1) 委嘱状・委任状の確認

大竹係長より委嘱状・任命状の確認。

(2) 教育長挨拶

【天野教育長】

おはようございます。教育長の天野でございます。日頃から本市の教育活動にご理解とご協力いただきまして、本当にありがとうございます。また皆様には、ご多用の中、委員を引き受けてくださいましたこと重ねて御礼申し上げます。

令和5年3月に策定しました、仙台市学校教育情報化推進計画にも掲げておりますが、本市では、児童生徒の情報活用能力の育成、学びに向かう力と、豊かな創造性の育成を目指しております。そのための学習環境として、一人一台の端末とクラウドの環境を効果的に活用していくことができるよう、学校現場の取り組みを支えているところでございます。

一方、国では次期学習指導要領の改訂に向けまして、情報活用能力の抜本的な向上について非常に活発な議論が行われているところでございます。特に端末活用環境の整備が進んだ現状と、そして生成AIなどの急速なデジタル技術の発展を踏まえ、これまでの情報教育の在り方を見直す動きが早まっている、強まっているところでございます。現在、教育現場におきましては、教員の指導力の向上はもちろんのこと、端末を効果的に活用した授業の在り方、そして、生成AIや教育データの利活用促進、家庭との連携など多岐にわたる課題に正面から向き合っているところでございます。本協議会は、まさにそうした課題を共有し、皆様とともに解決策を

探っていくための協議会ということになります。

委員の皆様におかれましては、様々なお立場から忌憚のないご意見をいただきまして、仙台市のこどもたちのための情報教育、または、学びの環境づくりに向けて我々が取り組んでいけるようご指導をいただければと思います。

簡単ではありますが、以上で私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

(3) 委員紹介

大竹係長より委員および事務局職員の紹介。

(4) 会長選出

稲垣委員より板垣委員の推薦有り。他の委員も異議なしのため、板垣委員が会長に決定。代理者として稲垣委員を指名。

【板垣会長】

改めまして宮城教育大学の板垣と申します。会長を推薦いただき拝命をいたしましたけれども、力不足のところまだまだあろうかと思っておりますので皆様から積極的な発言や議論をもってご支援いただければと思っております。

このGIGAスクール推進協議会ですけれども、それに関わる大きな話としては、やはり5月12日や22日に中教審の教育課程企画特別部会で、議案の議論がなされたことが挙げられると思います。年末に出された大臣諮問を受けて、情報活用能力の抜本的向上というのが一つのキーワードになっています。それは当然、いろいろな新しいテクノロジーが出てきていることや、日本がこれから少子高齢化となり少ないマンパワーでたくさんの成果を出していかなければならないときに、テクノロジーを活用してたくさん成果を上げていかなければなりません。その時の学校の話が、一つこの会議で話し合われることの大きい所だと思っております。

私自身が定年退職するのは、確か2055年だったと思うのですが、どんな時代になっているのかあまり想像がつかないですね。さらに、自分が今指導している学生が、教員になったときの小学1年生の定年退職を考えると、平気で2100年あたりになってしまいます。そのようになったときに、10年前に、今想像できなかったことよりももっと想像できないことが待っているのだと思うのですが、その時代にも、よりよく活躍できる将来の大人を育てるために、情報活用能力を初め、学校でこどもたちを育てていくところの一つの大きな柱がこの場で話し合われることなのかと思っております。

改めまして、一年間、よろしくお願いたします。

(5) 報告事項 GIGAスクール構想と本市の取組について

【事務局（教育指導課 ICT 推進担当）】

資料1「GIGAスクール構想と本市の取組について」報告

【稲垣委員】

9ページのところの、この表の中で中学校の活用が進んでいないところはかなり厳しい状況なのかなと思います。国の方のKPIは令和8年度なので、来年度ということになるわけですが、これは、小中合わせてということになります。その場合、令和7年度の仙台市は、③のところ65%、あるいは④では55%というところを目標にしているわけですが、そこからR8は大幅にジャンプアップしないとなかなか難しいという状況になってしまうと思うのです。そうしたときに、今年度やれることは、中学校をとにかく重点的にサポートしていくことが大事かなと思います。先ほどのお話にもあったように、具体的にどんなことをされるのか、あるいは教員研修で例えれば、小学校と中学校を比べたときに、中学校教員の参加が少ないのかなど、背景的なところも少し教えていただくことは可能でしょうか。

【事務局（教育指導課 ICT 推進担当）】

中学校の活用率が低い一つの理由として、教科担任制になっているので、教科ごとの特性によって差が大きく出てしまっているところがございます。例えば先ほども申しました授業支援ツール等ですけれども、教科によるいろいろな使い方のよさ等を周知していければ、少しずつ上がっていくものと思います。確かに目標としては大分高くなっているのですが、若干厳しいとは思いますが、頑張っていきたいと思っております。

【中村委員】

私は、昨年度もこの会に参加させていただいておりました。普段、授業の現場を通覧しながら見ているのですが、昨年度よりは少しずつ授業支援ツール等で、意見交換するような場面が見られるようになっていきます。しかし、今、課長のお話にもあった通り教科の違い、教諭の意識の違いというのがあります。使える人は進んで使っていて、苦手な方は、どうしても抵抗があり難しいというのが現状だと思っています。そこを何とかしていかなければいけないと思います。今のお話でも感じましたが、④番の中学校 34.4%からの増は少し厳しい目標であり、大きな課題だと考え聞いておりました。

【板垣会長】

昨年のこの会議の場でのアンケートの結果でも、端末活用率が小学校から中学校でストンと落ちるような様子もありました。こどもたちは小学校である程度使っていて慣れているのだと思います。中学校でも、同じようにこどもたちの土台があると思うので、そこが進んでいくとよいと思っておりました。

(6) 協議事項 ICT を活用した学校教育の推進について

【事務局（教育センター）】

資料2「ICT を活用した学校教育の推進について」説明

【板垣会長】

研究委員会の取り組みについてです。教育データ利活用部会と情報リテラシー部会を立ち上げられていますが、特にリテラシー部会は、生成AIのパイロット校を抱き合わせて連携した形で取り組めることは、非常によいと思います。また、リーディングDXスクールの認定校も指定を取ることができて、非常によいことだと思っておりました。先ほど教育データの利活用部会のところで、データに基づいてこどもの実態を見取るという話がありましたが、具体的にどのようなデータを見取り、どのような進め方で実施するのでしょうか。

【事務局（教育センター）】

教育データの利活用では、長濱准教授のご助言いただきながら、ロジックツリーにおける仮説に基づいて、データ分析の目的仮説を立て、どのような教育データを使うのか研究していきます。例えば仙台市の学習状況調査であるとか、先ほどのダッシュボードのデータであるとか、時には校内の定期テストのデータ等を組み合わせて、こどもたちのどのような姿が見取れるのかというところを研究していこうと考えております。

【板垣会長】

意義深い取り組みだと思っています。生成AIのリテラシー部会で、どのような実践があり、どのような成果があったのか、仙台市内の教員へ共有する場として年度末の報告会があるとお聞きしました。そのような機会において、大学の先生方からも助言をもらいながら全国的に研究内容を発信することには、意義があると思います。そして、その一つ一つの仙台市の取り組みが、仙台市が努力しているイメージに繋がり、様々な指定校や認定校の指定を受けやすくなる効果もあると思います。Webへの掲載も効果的であると思いますが、Webは見に来る人へのみ情報が行き届く傾向があります。例えば大学の先生方もいますので、教員や児童生徒から意見

を集めるアンケートなども必要だとは思いますが、学会発表を行うなど、努力していることをどんどん発信していけるように、進めていただけるといいのかなと思っておりました。

【安部委員】

先ほど紹介ありました、情報リテラシー部会の小学校の生成 AI パイロット校を引き受けることになりました。どちらかというと、小学校はこれまで生成 AI が使えないということもあり、ハードルが高い状況にありました。情報モラル教育をしっかりと行って、生成 AI を活用していくというフェーズが示されたので、先進的で今まで取り組んだことがない学習活動になりますが、私たちも学習するつもりで、岡本准教授の指導を受けて学びながら進めていきたいと思えます。さらに、その進捗もこの場で都度お話しできればと思っておりました。まず生成 AI 自体を学ぶ場面と生成 AI の使い方を学んでいく場面、そして各教科において積極的に活用していく場面など、段階があると思えます。

一年の中でどのように学習を進めていくか検討を重ね、ステップを踏んで実施していければと思いますので、ぜひご指導よろしくお願ひいたします。

別な話で質問があります。先ほどのスクールステップアップ研修体系図ですが、これはとてもよいものだと思っています。しかし、Web の方はリンクするものの校務支援システム内に格納されている PDF 版はリンクしないことから、体系図にたどり着けませんでした。学校では、まだこの体系図を知らない教員が多い印象がありますので、希望研修を決める 4 月の時期に周知を図っていただけるとよいと思ひました。

【板垣会長】

スクールステップアップ研修体系図は私も気になっていました。教員の活用率や使い勝手、これを使ったことで自分に合った研修を見つけることができているかどうか等、体系図に基づいた研修を周知する方法なども検討することができると思ひておりました。

【稲垣委員】

この研修ステップアップ図を見ると、オープンとスタンダード、アドバンストの 3 段階あることや、ICT 活用指導力のカテゴリーとリンクをさせていることなど、いろいろ工夫されていると思ひております。

教育データの活用という議論もありますが、現状、中学校で学習端末の活用が進んでないという現状がありました。中学校でどのくらいの研修を受けているかという状況は、当然センターは把握されていると思ひます。その状況に対して、ICT 活用指導力のデータもそれはそれで把握されていると思ひます。この 2 つを組み合わせると、研修を受講せず、活用指導力も低いとなると、当然のことながらその学校の端末活用は進まないと思ひます。そうであれば、そこにたくさん研修を受けてもらう働きかけをするなど戦略的に進めていく必要もあると思ひます。端末活用が進んでいる学校と、そうでない学校に分かれているという話も聞きますので、ぜひそういったところをセンターとして進めていかれるとモデルになると思ひております。

あともう一つ、先ほど生成 AI の話があったので確認です。今、仙台市の場合 Google のアカウント使っていますが、Google の Gemini に関しては、市立の小・中・高校において教員も含めて、どの段階で使えるようになっているのか、そのあたりの状況を教えていただけるとありがたいです。

【事務局（教育指導課情報化推進係）】

Gemini については規約上、Google Workspace での利用は 18 歳以上、それ以外のアプリケーションでの利用に関しては 13 歳以上となっております。仙台市としましては、「仙台版生成 AI ガイドライン」において、そのような各アプリケーションの規約を踏まえて、各学校の方で検討の上で利活用を推進できるということになっております。

【稲垣委員】

設定上、13 歳以上は使おうと思えば使えるという理解でよいですか。

【事務局（教育指導課情報化推進係）】

そのように設定しております。

【井阪委員】

生成 AI のことで簡単な質問です。小中学生、いわゆる児童生徒が学校教育の中で生成 AI を活用してどのような学習活動を基本的にイメージしているのかを教えてくださいたいです。小中学生の教育現場でどのようなことを行う想定なのか教えていただけると、私たちもイメージできますので教えてくださいたいと思います。

【板垣会長】

例えばパイロット校の申請のときのイメージだったり、これから取り組もうとしていることだったり、イメージあれば共有していただけるとありがたいです。

【事務局（教育センター）】

生成 AI パイロット校の方の申請を出させていただきました。館小学校では、総合を中心として他の教科でも生成 AI が使えるかどうか研究を進めるとのことでした。他の中学校では、英語や国語、社会などにおいて、その教科で身に付ける資質能力に生成 AI がどのように使えるか研究していきます。生成 AI を使って終わりとならないよう各学校が考えて研究を進めていくとのことでした。

【板垣会長】

具体的な学習活動の場面例はありますか。

【事務局（教育センター）】

生成 AI パイロット校の申請では、教科の特性に合わせて利活用すると申請を出しております。具体的な学習場面については、これから考えていくのですが、児童生徒が考え方を形成する場面で生成 AI を利活用する想定で申請を出しております。

【板垣会長】

私が聞いたことのある範囲で言えば、例えば、道徳の授業でクラスにはない意見や他の意見を生成させ、それに基づいて対話・思考を深める利活用がありました。また、英語の作文を添削してもらうような使い方はよく耳にします。さらに、自分が分からないことは Web 検索しても出てくるのですが、その説明だと分からないときにもう少し突っ込んで聞いたり、自分が分かりやすく知っている物にたとえて説明してもらったりするなど、そのような利活用の話を幾つか聞いたことがあります。

【中村委員】

清和田主任主導主事が先ほどご説明してくださった、教育センターの取り組みの中で、最後の方を聞き逃したのですが、どちらの学校が認定校になっているかもう一度教えてください。

【事務局（教育センター）】

リーディング DX スクール事業ということで、八木山小学校と柳生小学校、根白石中学校の 3 校になります。

【中村委員】

その事業でどのような実践ができるのかをまとめて、実践紹介のページ等で紹介するというような理解でよろしいでしょうか。

【事務局（教育センター）】

そのような理解でよろしいと思います。

リーディング DX スクール事業ですが、それぞれ八木山小学校、柳生小学校、根白石中学校で行うことになっています。

八木山小学校については、学習者主体の学びというところで、自分たちの学習ログ等学習した内容を振り返り、それを自分たちでフィードバックすることでよりよい学びにつなげていくところを研究していくとのことでした。柳生小学校につきましては、昨年から ICT を活用する研究となっていたのですが、今後は児童自身の能力に合わせてどのように活用できるか、ただ単に使うわけではなく、社会で使うようになった時に社会の学習に向き合っ利活用できるように ICT の使い方について考えていくとのことでした。根白石中学校に関しては、不登校支援の一環としてどのような形で ICT を活用できるのかということを中心にしながら、研究していきたいというお話をいただいております。

【中村委員】

このように、実際にここに来てお話を聞くと、本当にすごいなといつも感じています。それから先ほどから話題に出ていますように、中学校現場の研修が、もっと必要なのだということを感じています。一方、様々な事業や研究を実施して、Web で紹介することは、関係者も含めいつでも誰でも参考になるデータがたくさんあってよいと思う反面、やはり私のような苦手なものは、実際に行って経験する機会が欲しいと思っています。また、授業の中で活用するのであれば、このような GIGA 端末を使うことがねらいではなくて、やはり学習には前後があり、学習端末は一つの道具だと私は考えています。ですから、実際に授業における GIGA 端末の有効性については、こどもたちの実態を見ながら、授業の最初から最後でこどもたちがどのように変わっていくのかということが一番大事なことだと思います。

このように個人的に考えていますので、すぐには難しいかもしれませんが、活用例や見本となる授業がありましたら、公開など実際に見に行く機会を設けていただくと現場としては本当に助かります。

中学校は課題が多いですし、年配の先生方は苦手意識が高いです。しかし、若い先生方はやりたい人がたくさんいます。そのような教員に授業支援ツールの活用例など一コマでもよいので実際に授業を観に行ってもらうことで、もっと活用が進むのではないかと思います。また、その場の教員同士で話をすることが大事なことだと思いますので、そのような機会があれば、より研修が進むのではないかと思います。

【事務局（教育センター）】

今のご意見を参考にして検討させていただきたいと思います。

【板垣会長】

研修以外でも GIGA 端末の利活用を伝えていくというご提案だったと思います。せっかく認定校とかパイロット校の取り組みをこれから出されるので、それがいろいろな形で、研修や授業公開などにおいてしっかりと伝わっていくとよいのかなと思っておりました。

また、GIGA 端末を目的のために、手段として使うことは非常に大事で、最終的にはそうなるのだと思いますが、一方で GIGA 端末の使い方を理解することで、上手に使える段階になると思います。自動車学校などもそうですが、車に乗ることが目的になる段階があって、気がついたら、みんなでお出かけするなど、物を運ぶ、遠くに行く、もっと気がついたらもう歩くのが嫌いになっているような段階もあると思います。そういう考え方もあるので、肩肘張らないように、自分の身近なところで使ってみるという入口がスムーズなのではないかと思っております。

【井阪委員】

うちのこどもたちを取り上げた一つの例です。3 人とも、不登校になった場面がありました。そんな中、中学校の教頭先生や校長先生、主任の先生と話し合いまして、長男がパソコン

や機械が好きだったので、4年、5年前に Chromebook を活用して授業を中継してもらいました。また、SNS やパソコンを作るのが得意な先生がいて、その先生からパソコンを教えてもらいながら課題を解いたりしました。

娘の場合は、中学校の人間関係が合わず登校ができなため、授業内容についていけず、学校に通いにくい状況がありました。その時にチャレンジしたのが、パソコンを活用した個別学習でした。こどもたちがつまずいているポイントについて先生方が話し合っって Chromebook を使いながら、通常授業の中で、一人ひとりが別な課題を行いました。小学校5年生の学習内容が分からない人は、小学校5年生に立ち戻り、小学校6年生の学習内容が分からない人は6年生に立ち戻り授業してもらいました。そのような中で、先生方とコミュニケーションが取れて、最終的にまた学校に戻り、高校を受験するというところに至りました。

研究などは、なかなか世の中に出にくいものがあると思いますが、大事なことだと思います。うちの我が家の例でした。校長先生や教頭先生、新任の先生と何度も話し合いをして、こどもたち一人ひとりの現状を考えてチャレンジさせていただきました。今、家では3人とも無事高校に入学して通学しております。

【板垣会長】

ICT を活用して多様なニーズに応じた学びの形で対応しているというリアルなお話を聞かせていただいたと思っています。

次に、ICT を活用した多様な学びについてのお話もありますので、そちらの方でも、仙台市の取り組みの具体例を聞かせていただけたらと思っています。

【及川委員】

得意な先生方は、すごく興味を持っていろんな研修にも参加されて、ICT を活用した新しい取り組みをしてくださると思うのですが、私のこどもの経験ですが、学年内で隣のクラスと活用の差があったときもありました。足の引っ張りにはしたくないので、できる人がもうちょっと我慢してという言い方はしたくないのですが、苦手な先生方へ研修を案内してチャレンジするというのは少しハードルが高いと思います。

また、興味がない人は、こういうデータもなかなか見る機会が少ないと思いますので、せめてその学年間で、ICT 活用について使い方に特化した打ち合わせを持っていただく機会を設けていただけると、指導に差がなくなるのかなと保護者としては毎年感じております。こどもたちからも隣のクラスの活動がいいなと感じている話もよく聞こえてきます。それによって、先生方へのこどもたちの好き嫌いがどうしても出てきてしまうかなと思います。専門的なことを抜きにして、一保護者として GIGA スクールの取り組みを見ての感想です。

こどもたちの方は、先生から直接いろいろ教えていただいて吸収しているのですが、保護者の理解が進んでいないように思います。例えば端末上での宿題が出た場合、どうチェックしたらいいか分からないなどの意見も聞こえてきているので、お便りか何かで「こういう形で宿題を出す場合があります」のような紹介文を入れていただく機会があると、こどもたちが何をやっているのか保護者も理解しやすいと思って見ておりました。

【板垣委員】

学習指導要領で授業のスタンダードは示されていて、教育公務員としてこどもに不利益な状況になってはいけないと思っています。また、家庭との連携でも具体的な一つのご意見を頂戴できたと思っています。

【安部委員】

特に、小学校なのかなという感じを今聞いて思いました。うちの学校で言いますと、学年のレベルで合わせるというのは、学年会などの機会にある程度そろえていく必要があるので意識してやっているところではあります。ただ、うちの場合は半分が単学級なので、なかなかそういうこともできない状況もあります。保護者様がその思いを持たないように気をつけてやっているところではあるのですが、研修を受けるというよりは、むしろ近くの得意な先生

から学ぶというのが一番のOJTになり、とてもよい学びにつながると思うので、そこを活性化していけるといいのかなと今お話を聞いて思いました。

(7) 協議事項 情報活用能力の育成に向けた教育課程の編成について

【事務局（教育指導課）】

資料3「情報活用能力の育成に向けた教育課程の編成について」説明

【稲垣委員】

情報活用能力に関しては、私も文科省の情報活用能力調査等で少し関わらせていただいているので、次の指導要領に向けた議論がいろいろ起きているわけですが、教科横断で進んできたものから、ニュース等でも報道されている通り、「情報」の時間を総合の中に設けるかどうか、少し内容的に特化したことをやっつけていこうということも議論されています。

それから生成AIのことについても、当然、情報活用能力の方には入ってきますので、そういった意味では情報活用能力をこれまでやってきたものから、もう一段ステップアップして仙台市としても今後の方向性を考えていく必要があるのではないかと考えております。

それに関連して、後半のところですが、家庭の話になると急に情報モラルの話だけになります。このことについて、実は非常に違和感を持っていて、先ほど及川委員の方からもお話がありました。例えば子どもたちが家庭で端末を活用して宿題を行っていても、親は何をやっているか分からないことがあります。これは結局、情報モラルの話だけではなく、例えば活動スキルや探究スキルあるいはプログラミングも含めた情報活用能力というのがどんなものであり、それを今学校でどのように教育しているのか。そこについて保護者の方に事細かく伝えなくてもよいと思いますが、少なくともこんなことをやっていますということを、共有することが非常に大事だと思います。

昨年度までいくつかの学校でGIGAスクール勉強会を実施させていただきました。その中でもやはり保護者の方々から、「初めてこのような体験をして、今の子どもがどのように勉強しているのか分かった」と、話をされている方がたくさんいらっしゃいましたので、そんなところをぜひ今後進めていただけるといいと思います。

【佐藤委員】

情報活用能力について質問があるので教えていただければと思います。

今、話題になった情報モラルにイメージが集中していますが、情報活用能力は、小中学校、高校含めて義務教育の中で進めているということは、生活にも溶け込んでいて必要な力になると思います。おそらく、様々なところで身に付けていかなければならない能力で、「皆さん身に付けましょう」という話になるのだと思います。最終的には大人になったときに、日常生活や仕事の中で使っていく上で、家庭など生活の中で学んできたところがあります。今の小中学生がこどものころから情報活用能力を育成していくことは、デジタルネイティブになるということで、当たり前のようにこの力を身に付けていく中で、どの段階で、どこまで学習していくのかビジョンを教えていただければと思います。それが分からないと、保護者が、どこまで関わられるのか非常に難しいところがあると思っています。

私も仕事上、情報関係は使うので、ある程度は対応できますが、情報活用能力を育成する上で、現状モラル中心のところを今後どのように進め方をしていくのか教えてほしいと思います。例えば、誰しもがプログラミングできるレベルとか、AIが進化している中で、どこまで対応していけるか教えていただきたいです。私はあと20年ぐらいをすれば定年なので、もうAIも、使えても使えなくてもよいのですが、今の子どもたちは使われる側ではなく、使う側になって社会で生きていかなければならないところで、今後、保護者がどこまで考えていくべきか聞けると、我々としても準備ができてよいので、学校に関わる一保護者で教育に関わる者として知っておきたいところです。こういった会議の場でもし話があるのであれば、お聞きしたいです。

【板垣会長】

今のお話は、仙台市として情報活用能力の育成を具体的にどんなところを目指そうとしているのかという話と、家庭との連携がどんな具合に行われるかっていう話だったと思いますが、そのあたりについてはいかがでしょうか。

【事務局（教育指導課）】

現段階では、仙台版情報活用能力学習目標リストを作っております。例えば、活動スキルにおいては、レベル1 小学校下学年で、このような力まで育てていきたいと示しています。このように、それぞれ仙台版情報活用能力学習目標リストはレベル分けした4つの要素から構成されています。この4つの要素を育成することを、各学校では教育課程の中に編成して進めている状況ではございます。

保護者の方とどう共有していくか、そして、どのように一緒に取り組んでいくかというところは、この場で具体的にお答えすることは難しいのですが、とても大切なお話だと思っておりますので、家庭と連携して進められるように検討して参りたいと思っております。

【板垣会長】

端末の家庭への持ち帰りや、先ほど及川委員からあったように文書での共有、さらに保護者と一緒のワークショップなど連携を図りながら進めていくのだと思っておりますが、その辺りも密になっていくとよいなと思っております。

今、資料で小学校にフォーカスしたお話をいただいたと思いますが、どこにフォーカスしようか考えた時に小学校になりがち傾向があると思っております。中学校だと「技術・家庭科」の技術分野があり、高校では「情報」がありますが、それはあくまで中核となる教科であり、小学校の例でも音楽や総合の授業の中でプログラミング等の話がありましたけれど、中学校や高校でどれぐらい学習が行われているのかということが課題だと思っております。小学校では全教科横断的に行っているところから中学校や高校で急に技術科とか情報科にシュリンクしてしまうのが残念で、発展している感じがしない部分があると思っております。

中学校の技術だと週に1時間の学習で、情報の内容だけ学習しているわけではないことや高校でも、週2時間ぐらいの学習となると、それ以外の時間での学習を考えた時に、むしろ他の教科の方が多くの授業数があるって触れられる機会というのは多いわけなので、小学校のように技術や情報に任せきりにならないように幅広く行っていくことが必要なのだと思っております。

(8) 協議事項 ICT を活用した多様な学びについて

【事務局（教育相談課 教育支援センター）】

資料4「ICT を活用した多様な学びについて」説明

【及川委員】

中学校不登校でして、高校も通信制高校に通っておいりましたので、このような取り組みを早い段階から取り入れられる今の子どもたちが大変うらやましく思います。

ただ、これは今現在、不登校対象者に限定されている取り組みかと思っておりますので、学校には通えているものの不登校になる前の段階のお子さんたちも悩んだり、ちょっと勉強についていけず悩んだりしている不登校傾向のあるお子さんがいらっしゃると思っております。

すぐには難しいと思うのですが、そういう子たちも気軽に参加して、相談窓口を広げていただくことや、ちょっと自分の苦手なところだけオンライン学習も組み合わせ使えるようになるなど、不登校になってからの対策も重要ですけども、なる前の防止策にも生かしていけるといいのかなと思っておりました。

【板垣会長】

ウェルビーイング等を考えたときに大事なお指摘をいただいたと思っております。

【稲垣委員】

どちらの取り組みも非常に重要だと思いながら聞いていました。改善策として年度当初に、全保護者へ通知と書いてありますが、私が見逃しているのかもしれませんが、私は見た記憶がないのでうまく周知できるとよいと思いました。また、実際不登校の状況にあるときに、学校からの通知でそれが情報として届くかというところは、結構難しいところもあると思います。

例えば、地域であれば児童館など、何らかの形でそのこどもとの接点があります。もしかすると、町内会の回覧版などの方がよいのかもしれませんが、保護者の方、あるいはそのこどもたちに情報が届くような仕掛けというのはぜひ工夫していただけるとよいと思いました。

メタバースの方に関しては、昨年度、うちのゼミでも同じツールを使って宮城県の教育委員会で行っていた取り組みに関わっていました。大分できることが増えているようで非常にいいなと思って見ておりました。

実際これをこどもたちがどのように活用していくのか、このお話と「杜のEネ!」の話と、うまく連携していくことで、メタバースやオンライン授業、さらに、「児遊の杜」や支援センターも含めて、個別のメニューの紹介で終わらずに、これだけ多様なメニューの中でこどもたちの学びを保障しようとしている見せ方の工夫をしていけるといいのかなと思いました。

【安部委員】

「COCOLOプラン」繋がりで教育相談課から聞いていた話で「心の健康観察」についてお話しします。

こちらは文科省の方で推奨されているものですが、うちの学校で昨年度二週間ほど実践してみて、とてもよい取り組みだと思いました。今年度は、後半あたりに少し落ち着いたところで、少し期間を長くして行っていこうと考えています。こどものちょっとしたアクションや主張をすぐ教員が見取り、すぐにこどもに声をかけることができました。いじめの未然防止とまではいかないまでも、非常に前向きに取り組めたと思っています。

全市的に今後実施していくかどうか分からないのですが、実施してすごくよかったと思うので、ぜひ具体的に進めていくのもよいと思いました。

8 閉会

【事務局（教育指導課情報化推進係）】

本日は、ご多用の中、本協議会のご出席ありがとうございました。委員の皆様からいただいた意見を踏まえ、本市におけるGIGAスクール構想の着実な推進に向けて関連事業の展開をして参ります。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

これで令和7年度第1回仙台市GIGAスクール推進協議会を終了いたします。